

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成29年11月13日
【四半期会計期間】	第40期第2四半期（自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日）
【会社名】	株式会社中京医薬品
【英訳名】	CHUKYOIYAKUHIN CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山田 正行
【本店の所在の場所】	愛知県半田市亀崎北浦町二丁目15番地の1
【電話番号】	0569(29)0202(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 辻村 誠
【最寄りの連絡場所】	愛知県半田市亀崎北浦町二丁目15番地の1
【電話番号】	0569(29)0202(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 辻村 誠
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第39期 第2四半期累計期間	第40期 第2四半期累計期間	第39期事業年度
会計期間	自平成28年4月1日 至平成28年9月30日	自平成29年4月1日 至平成29年9月30日	自平成28年4月1日 至平成29年3月31日
売上高 (千円)	2,889,927	2,670,542	5,867,520
経常利益 (千円)	46,529	33,625	133,699
四半期(当期)純利益 (千円)	15,227	2,413	49,076
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	681,012	681,012	681,012
発行済株式総数 (千株)	11,660	11,660	11,660
純資産額 (千円)	1,838,956	1,836,475	1,847,242
総資産額 (千円)	4,826,457	4,665,127	4,648,809
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	1.83	0.29	5.91
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	2.50	2.50	5.00
自己資本比率 (%)	38.1	39.4	39.7
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	6,028	27,059	144,371
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	29,444	11,203	51,835
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	129,511	13,152	240,999
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	542,751	588,281	559,273

回次	第39期 第2四半期会計期間	第40期 第2四半期会計期間
会計期間	自平成28年7月1日 至平成28年9月30日	自平成29年7月1日 至平成29年9月30日
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額 (円)	0.03	0.13

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

#### (1)業績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策や金融政策等による企業業績の改善、良好な雇用状況が下支えとなり、緩やかな回復基調が継続しました。一方では、欧米などの世界情勢の不安定化により、先行きについては、依然不透明な状況が続いております。

このような環境の中で、当社は「もっと健康、ずっと幸せ。」を企業スローガンとして定め、お客様が心身共に健康で幸せな社会生活を営むことに貢献し続けていくことを使命として捉え、より一層お客様に「健康」と「幸福」をお届けできる企業を目指すために邁進してまいりました。さらに、お客様本位の営業を徹底し営業効率の向上と販売費及び一般管理費の削減による財務基盤の強化にも取り組みました。

家庭医薬品等販売事業におきましては、効率的となった営業体制と強固な財務基盤を維持継続しつつ、中期経営計画に基づき利益を重視した経営戦略を推進してまいりました。

またアクアマジック事業部で展開いたしております売水事業につきましては、ボトルのリターンブルによるTwo-Way方式の拡大に加え、ボトルの回収が不要なOne-Way方式において営業エリア拡大と顧客数の増加などにより事業拡大に努めました。

その結果、当第2四半期累計期間における売上高は2,670百万円（前年同期比7.6%減）、営業利益は25百万円（前年同期比31.8%減）、経常利益は33百万円（前年同期比27.7%減）、四半期純利益は2百万円（前年同期比84.1%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### 家庭医薬品等販売事業（小売部門・卸売部門）

小売部門においては、前期導入した新小売システムにより、今後の更なる顧客サービスの追及と営業効率の改善が行えるようになりました。また、シニア社員の登用や、女性社員を積極的に採用し、お客様の多様なニーズに対応できるよう営業職層の拡大と労働環境の整備に努めて参りました。売上高につきましては、家庭医薬品等販売事業の小売部門において、顧客の世代交代に対応するため全社的に新規開拓を行い、総顧客軒数は概ね維持する事が出来たものの継続顧客の減少を補うだけの新規顧客への販売が伸びず、減収となりました。

卸売部門においては、新たにフランチャイズ契約を締結した(株)仙台中京医薬品や栃木中京医薬品への卸売販売が増加しております。

その結果、売上高は2,335百万円（前年同期比8.6%減）、セグメント損失30百万円（前年同期は、セグメント利益15百万円）となりました。

#### 売水事業部門

昨今の健康志向ブームによる飲料水へのこだわりと、拡大するミネラルウォーター宅配市場の成長の波に乗り、早期に中核事業の1つとして確立することを目指しております。またOne-Way方式により営業エリアが拡大され顧客への拡販も積極的に取り組みました。

その結果、売上高は334百万円（前年同期比0.3%増）、セグメント利益56百万円（前年同期比151.1%増）となりました。

#### (2)財政状態の分析

当第2四半期会計期間末における資産合計は4,665百万円となり、前事業年度末に比べ16百万円増加いたしました。これは主に受取手形及び売掛金の増加21百万円、現金及び預金の増加16百万円及び商品及び製品の減少28百万円によるものであります。

当第2四半期会計期間末における負債合計は2,828百万円となり、前事業年度末に比べ27百万円増加いたしました。これは主に短期借入金の増加110百万円、賞与引当金の減少48百万円及び長期借入金の減少72百万円によるものであります。

当第2四半期会計期間末における純資産合計は1,836百万円となり、前事業年度末に比べ10百万円減少いたしました。これは主に自己株式の減少7百万円、利益剰余金の減少19百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は、前事業年度末の39.7%から39.4%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、588百万円(前年同期比8.4%増)となりました。当第2四半期累計期間におけるキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。なお、資金の源泉及び流動性に係る情報として追加して記載すべき事項はありません。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、増加した資金は27百万円(前年同期は6百万円の減少)となりました。これは主に、税引前当期純利益33百万円、減価償却費52百万円及び賞与引当金の減少額48百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、減少した資金は11百万円(前年同期は29百万円の減少)となりました。これは主に、定期預金の払戻による収入32百万円、定期預金の預入による支出19百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、増加した資金は13百万円(前年同期は129百万円の減少)となりました。これは主に、短期借入金の純増加額110百万円、長期借入金の返済による支出105百万円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 主要な設備

該当事項はありません。

(7) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の状況と見通し

該当事項はありません。

(8) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社の運転資金需要のうち主なものは、仕入及び全国に営業所展開をしている労働集約型の業態であることから人件費、地代家賃、車輛運行費、リース料等の販売費及び一般管理費によるものであります。

また運転資金は主に営業活動から生ずるキャッシュ・フローにより賄っておりますが、賞与支払や設備投資資金の調達には必要に応じて金融機関からの借入を行っております。



### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	25,000,000
計	25,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成29年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	11,660,734	11,660,734	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	11,660,734	11,660,734	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成29年7月1日～ 平成29年9月30日	-	11,660	-	681,012	-	424,177

(6) 【大株主の状況】

平成29年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
株式会社マサユキコーポレーション	愛知県半田市亀崎月見町2丁目58-1	1,445	12.39
知多信用金庫	愛知県半田市星崎町3丁目39-18	497	4.26
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	416	3.56
山田 正行	愛知県半田市	331	2.84
中京医薬品従業員持株会(きずな会)	愛知県半田市亀崎北浦町2丁目15番地の1	227	1.95
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	200	1.71
山田 重子	愛知県半田市	163	1.39
山田 正人	愛知県半田市	145	1.24
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2丁目1-1	128	1.09
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	120	1.03
計	-	3,676	31.52

(注) 1. 上記の他、自己株式が2,920千株あります。なお、自己株式には、従業員向け株式給付の信託口が保有する当社株式229千株と従業員持株会信託口が保有する当社株式186千株を含んでおりません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,336,400	-	単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,292,400	82,924	同上
単元未満株式	普通株式 31,934	-	-
発行済株式総数	11,660,734	-	-
総株主の議決権	-	82,924	-

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
株式会社中京医薬品	愛知県半田市亀崎北浦町 2丁目15-1	2,920,400	416,000	3,336,400	28.6
計	-	2,920,400	416,000	3,336,400	28.6

(注) 他人名義で所有している理由等

所有理由	名義人の氏名又は名称	名義人の住所
「株式給付信託(J-E S O P)」 制度の信託財産として拠出	日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社	東京都中央区晴海1丁目8-11
「従業員向け株式給付」制度の信託 財産として拠出	日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社	東京都中央区晴海1丁目8-11

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

## 1【四半期財務諸表】

## (1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	737,351	753,923
受取手形及び売掛金	416,750	438,418
商品及び製品	410,250	382,228
委託商品	372,908	377,135
仕掛品	127	100
原材料及び貯蔵品	23,659	28,498
その他	146,185	174,062
貸倒引当金	3,554	4,148
流動資産合計	2,103,678	2,150,219
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	617,102	600,991
土地	1,313,150	1,313,150
その他(純額)	82,176	69,733
有形固定資産合計	2,012,429	1,983,875
無形固定資産	167,202	149,576
投資その他の資産		
前払年金費用	75,396	79,459
その他	294,901	306,885
貸倒引当金	4,799	4,889
投資その他の資産合計	365,498	381,455
固定資産合計	2,545,130	2,514,907
資産合計	4,648,809	4,665,127
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	407,640	439,184
短期借入金	720,000	830,000
1年内返済予定の長期借入金	193,968	210,624
未払法人税等	64,606	33,594
賞与引当金	161,070	112,690
返品引当金	20,501	6,317
その他	403,830	450,292
流動負債合計	1,971,616	2,082,702
固定負債		
長期借入金	327,192	254,988
退職給付引当金	144,211	144,321
株式給付引当金	5,585	8,427
資産除去債務	4,601	4,626
長期未払金	232,720	232,720
その他	115,639	100,864
固定負債合計	829,950	745,949
負債合計	2,801,566	2,828,651

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成29年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	681,012	681,012
資本剰余金	424,177	424,177
利益剰余金	1,734,819	1,715,382
自己株式	1,000,131	993,084
株主資本合計	1,839,877	1,827,487
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	7,365	8,988
評価・換算差額等合計	7,365	8,988
純資産合計	1,847,242	1,836,475
負債純資産合計	4,648,809	4,665,127

(2)【四半期損益計算書】  
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	2,889,927	2,670,542
売上原価	818,570	759,362
売上総利益	2,071,357	1,911,179
販売費及び一般管理費	2,033,984	1,885,676
営業利益	37,373	25,503
営業外収益		
受取利息	52	81
受取配当金	1,275	1,151
受取家賃	7,101	6,837
事故保険金	2,416	183
その他	1,604	2,116
営業外収益合計	12,451	10,370
営業外費用		
支払利息	2,785	2,247
支払手数料	46	-
為替差損	463	-
その他	0	0
営業外費用合計	3,295	2,248
経常利益	46,529	33,625
特別利益		
固定資産売却益	2,295	-
特別利益合計	2,295	-
特別損失		
固定資産除売却損	-	100
減損損失	853	-
特別損失合計	853	100
税引前四半期純利益	47,970	33,525
法人税、住民税及び事業税	20,106	19,642
法人税等調整額	12,636	11,469
法人税等合計	32,742	31,112
四半期純利益	15,227	2,413

## (3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	47,970	33,525
減価償却費	46,274	52,230
減損損失	853	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	686	682
退職給付引当金の増減額(は減少)	23	109
株式給付引当金の増減額(は減少)	3,091	2,841
賞与引当金の増減額(は減少)	17,010	48,380
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	-	1,870
受取利息及び受取配当金	1,328	1,232
有形固定資産売却損益(は益)	2,295	-
無形固定資産除却損	-	100
支払利息	2,785	2,248
売上債権の増減額(は増加)	75,677	21,667
たな卸資産の増減額(は増加)	227,944	18,983
仕入債務の増減額(は減少)	80,870	31,544
その他	7,729	8,781
小計	15,963	77,898
利息及び配当金の受取額	1,268	1,191
利息の支払額	2,785	2,248
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	20,475	49,782
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,028	27,059
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	19,801	19,800
定期預金の払戻による収入	19,200	32,236
有形固定資産の取得による支出	11,377	2,705
有形固定資産の売却による収入	4,027	-
貸付けによる支出	3,000	5,000
貸付金の回収による収入	200	508
その他	18,693	16,441
投資活動によるキャッシュ・フロー	29,444	11,203
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	40,000	110,000
長期借入れによる収入	68,000	50,000
長期借入金の返済による支出	117,133	105,547
リース債務の返済による支出	24,586	26,497
自己株式の取得による支出	49	-
自己株式の売却による収入	5,608	7,047
配当金の支払額	21,350	21,850
財務活動によるキャッシュ・フロー	129,511	13,152
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	164,984	29,008
現金及び現金同等物の期首残高	707,735	559,273
現金及び現金同等物の四半期末残高	542,751	588,281

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

四半期会計期間末日満期手形

四半期会計期間末日満期手形の会計処理については、当四半期会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当四半期会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成29年9月30日)
受取手形	- 千円	10,475千円
支払手形	-	73,775

(四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
給料及び手当	990,644千円	919,587千円
賞与引当金繰入額	153,378	112,829
退職給付費用	19,685	17,288

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
現金及び預金勘定	718,998千円	753,923千円
預入期間が3か月を超える定期預金	176,246	165,641
現金及び現金同等物	542,751	588,281

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月23日 定時株主総会	普通株式	21,788	2.5	平成28年3月31日	平成28年6月24日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)に対する配当金438千円、三井住友信託銀行株式会社(信託E口)に対する配当金575千円を含んでおります。

(2) 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年11月11日 取締役会	普通株式	21,990	2.5	平成28年9月30日	平成28年12月12日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)に対する配当金591千円、三井住友信託銀行株式会社(信託E口)に対する配当金574千円を含んでおります。

当第2四半期累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月27日 定時株主総会	普通株式	21,850	2.5	平成29年3月31日	平成29年6月28日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)に対する配当金1,102千円(従業員持株会信託口528千円、従業員向け株式給付信託口574千円)を含んでおります。

(2) 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年11月13日 取締役会	普通株式	21,850	2.5	平成29年9月30日	平成29年12月11日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)に対する配当金1,040千円(従業員持株会信託口465千円、従業員向け株式給付信託口574千円)を含んでおります。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	四半期損益計算書計上額 (注)2
	家庭医薬品等販売事業		売水事業部門	計		
	小売部門	卸売部門				
売上高						
外部顧客への売上高	2,236,467	318,304	333,207	2,887,979	1,947	2,889,927
計	2,236,467	318,304	333,207	2,887,979	1,947	2,889,927
セグメント利益 又は損失( )	5,340	20,392	22,321	37,373	-	37,373

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含んでいない事業セグメントであり、保険事業部門等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失( )の合計額は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(主な減損損失)

「売水事業部門」セグメントにおいて、減損損失853千円を計上しております。

当第2四半期累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	四半期損益計算書計上額 (注)2
	家庭医薬品等販売事業		売水事業部門	計		
	小売部門	卸売部門				
売上高						
外部顧客への売上高	2,081,873	253,158	334,332	2,669,365	1,176	2,670,542
計	2,081,873	253,158	334,332	2,669,365	1,176	2,670,542
セグメント利益 又は損失( )	24,711	5,838	56,052	25,503	-	25,503

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含んでいない事業セグメントであり、保険事業部門等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失( )の合計額は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	1円83銭	0円29銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	15,227	2,413
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	15,227	2,413
普通株式の期中平均株式数(千株)	8,320	8,311

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

1. 当社は、平成29年11月13日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....21,850千円

(ロ) 1株当たりの金額.....2円50銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成29年12月11日

(注) 1. 平成29年9月30日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

2. 配当金の総額には、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)に対する配当金1,040千円(従業員持株会信託口465千円、従業員向け株式給付信託口574千円)を含んでおります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年11月13日

株式会社中京医薬品

取締役会 御中

有限責任あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 鈴木 賢 次 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 加藤 浩 幸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社中京医薬品の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第40期事業年度の第2四半期会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第2四半期累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社中京医薬品の平成29年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれておりません。